

JIIAフォーラム
2013年3月19日

「TPP問題と日本農業の再生」

本間正義

東京大学大学院農学生命科学研究科

今、グローバル化をどう考えるか

- WTO交渉の停滞と、各国FTAの推進
- 国際政治的発言力と国際協調の強化
- ネットワークの外と内の損得：日墨FTAの例
- ネットワークの外におかれると、ガラパゴス化（国内でしか通用しない制度）のリスクが大
- 貿易自由化を超えて、制度の統一化、競争条件の共通化まで含めた国際化
- 地球規模での資源の効率的利用への協調

日本になぜTPPが必要か

- 長期の経済停滞からの脱出、特にFTAで先行する韓国との輸出競争でのハンディを取り返す
- 成長戦略として、投資の促進と貿易の円滑化のためのルール作り、制度化が重要
- 中国の資源禁輸や投資制約、国営企業等の利己的経済政策に対抗し、国際ルールを確立し同調を促す
- これまで放置してきた農業の国際化を通じて、日本農業の体質強化を図る
- 対米戦略で、二国間では困難な課題を多国間協議で処理するため、米国以外の参加国との協調が機能する

TPPは例外なき即時関税撤廃か？

- ・P4で90%は即時撤廃したが、チリの乳製品(34品目)は12年以内の撤廃
- ・P4でチリ的小麦(2品目)、砂糖(17品目)、油脂(29品目)は10年以内に撤廃
- ・P4でニュージーランドは革製衣類附属品(12品目)、繊維(228品目)、衣類・履物(60～64類)は発効後10年で撤廃
- ・米豪FTAで砂糖と乳製品(枠外税率)は関税撤廃の対象外で、牛肉は18年かけて撤廃
- ・米豪FTAでネギ、セロリ、ほうれんそう、葉たばこ、アボカドは10年かけて撤廃
- ・米豪FTAで米国の牛肉の輸入や園芸作物の輸入に対しては、一定の価格下落や一定の輸入数量の増加があると関税を引き上げる、セーフガードが措置されている

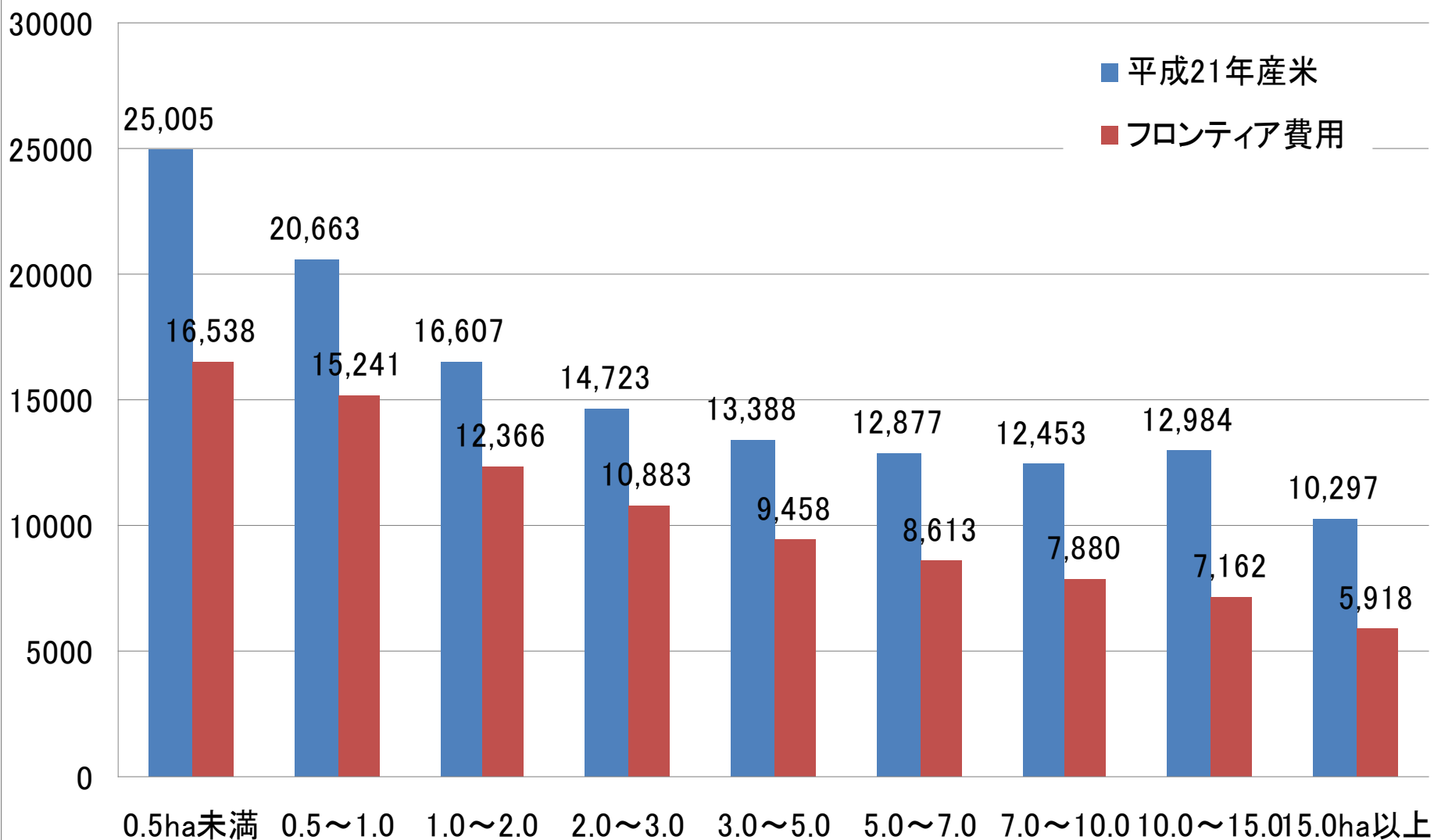
TPPを考えるための正しい情報

- 冷静な議論とマクロ的長期的視点からの判断
- TPP不参加による日本経済への長期的影響
- 関税撤廃まで10年+ α 、コメは5年後でもkg当り170円の関税を維持できるので、8年かけて構造改革をすればいい
- 医療、ISDSなど、正確な情報と正しい認識
- TPPも他のFTAも更なるグローバル化への一歩
- WTOにつながるルール化・制度化への交渉
- 国際化対応がなければ国内農業は空洞化する

TPP参加に必要な構造改革

- 人・農地プランで平地で20～30ha経営へ：青年就農者等に年間150万円を最長7年間給付
- 分散錯圃の下では15haを超えると費用増：分散錯圃解消で50ha規模なら5,000円/60kg
- 農外企業の農業参入、農業者とのコラボレーションの推進：農地取得規制の緩和・撤廃
- 農地流動化への積極的対応：集積円滑化事業の民間参入、離農促進、転用期待の排除
- 農地の定義の見直しと保有コストの引き上げ：一定規模以上のみに優遇税制

コメ生産費削減の可能性(60kg当たり円)



新しい農業の創造

—食と農のクラスターの形成—

- 産業クラスターは、企業、大学、研究機関などが地理的に集積し、相互の連携・競争を通じて新たな付加価値やイノベーションを創出する基盤
- 地域にある素材・人材を活かし、地域に根ざした研究機関や企業と連携することによる内発的経済発展への取り組みが重要
- 食料基地のいくつかに、産業や企業を超え、成長センターとなる食と農のクラスターを形成し、地域活性化・発展の基盤とする
- 食と農は生産から消費までのサプライチェーン、バリューチェーンが多様で、様々な展開が期待できる

日本でのフードバレーの可能性

- 1) **要素条件**: 大学、研究機関の有効活用と再編、海外からも人材を集め、ビジネスに取り込みベンチャー企業を創設、それらをスピノフ的に発生させてイノベーションの創造を持続的なものにする
- 2) **需要条件**: 日本の食品に対する高い評価をさらに分析し、海外市場でのニーズとその変化をフォローし、新たな商品開発を行う
- 3) **関連産業・支援産業**: 食品関連産業の有機的再編と新たな結合、研究機関、インキュベーター、金融機関の集積(例: オランダ・ワーヘニンゲンのフードバレー)
- 4) **企業戦略及び競争環境**: 日本では最も遅れており、国際市場で戦うためには、食品産業もこれまで棲み分け的に展開してきた環境を変える必要がある

日本農業の再生のために

- 霞ヶ関平均値農政に依存しない農業の確立
 - ☆地域の取組みをプロモートすべき地域農政
- 大型特区で自由な農業と異業種とのコラボ
 - ☆農地を有効利用するなら規制適用除外
- 日本農業の3分割：日本型農業の展開
 - ☆食料基地農業、オランダ型農業、サービス農業
- 農業と地域活性化のためのリーダーの育成
 - ☆異業種への派遣、海外で商社活動を学習
- 輸出志向で、海外の市場を開拓
 - ☆コメはマーケットを世界に求め輸出産業へ